

平成29年4月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成29年4月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

先月22日、八戸圏域8市町村（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）による青森県内初の連携中枢都市圏が誕生しました。

「地域の個性が輝き自立した八戸圏域」（将来像）を目指し、人口減少、少子高齢化の中、圏域の活力維持を図ってまいりますので、今後ともご指導、ご協力をお願いします。

さて、4月1日付けの人事異動により、当事務所の職員が、次のとおり変更となりました。当事務所長の古町、新たに赴任しました奈良岡、嘱託職員の籠利の3人体制となります。

引き続き、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

	新職名	旧職名
すずき のぶひさ 鈴木 伸尚	観光課長	東京事務所長
ふるまち ゆか 古町 有加	東京事務所長	東京事務所主幹
ならおか くにひこ 奈良岡 邦彦	東京事務所主査	人事課

◎八戸特派大使の方々へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市広報統計課または八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 /FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 4月号 レポート

平成29年3月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	新美術館の最優秀設計者決まる
(2)	青森県内初 八戸圏域連携中枢都市圏が誕生
(3)	スピードスケート世界大会 2大会統合でも八戸市へ誘致の方針
(4)	西地区給食センター完成 アレルギー対応も万全
(5)	南郷地区のブドウ栽培 生産規模 大幅拡大へ

【産業】

記事	概要
(6)	2016年青森県内の外国人宿泊者数 最多の14万5千人
(7)	八戸港 数量、金額とも2カ月連続で過去最低

【地域】

記事	概要
(8)	焼失の蕪嶋神社 社殿の基礎工事完了
(9)	八戸グランドホテル顧問の高畑さん “一流”マナー講師に合格
(10)	「図書館を使った調べる学習コンクール」 吉野君（吹上小）が観光庁長官賞受賞
(11)	市民400人が手をつなぐ「ヒューマンバンド」で震災犠牲者追悼
(12)	館鼻岸壁の日曜朝市始まる ～早春のハマに活気～
(13)	～学んだ知識を地域に還元～ 八戸鷗盟大学卒業式で決意
(14)	青森県民は花見好き 予算3,167円で全国一
(15)	八戸献血ルームが3月末で休止 “駆け込み善意”続々
(16)	八戸水産高の実習船「青森丸」ハワイ海域での航海実習終え帰港
(17)	八戸駅 待ち時間の“おもてなし” マッサージの試験サービス実施
(18)	八戸港に南洋から珍客 「スミツキアカタチ」漁獲

【文化・スポーツ】

記事	概要
(19)	ヴァンラーレ八戸 初の開幕戦勝利 J3へ好発進
(20)	5人組歌手「ピースストーン」 ～八戸の魅力を全国に～ シングルCD発売
(21)	5校の高校生が劇団旗揚げ公演 ～地元愛たっぷり 情熱発信～
(22)	八戸童話会 南部弁を学べるCD「あのなっす南部弁」作製
(23)	八戸弓道協会で初 外国人2人が1級射止める

【行政】

記事	概要
(1)	<p>新美術館の最優秀設計者決まる</p> <p>八戸市が整備する新美術館について、基本設計業者を選定する審査委員会は2日、小林眞市長に「西澤徹夫建築事務所」（東京都）を最優秀者とする審査結果を報告した。まちと芸術文化を育てる拠点として「八戸ラーニングセンター」をコンセプトに掲げ、アートに関わる多様な活動を展開する「ジャイアントルーム」を中心に、専門性の高い個室群などを配置。市は3月下旬に契約を結び、2018年2月末までに基本設計を完成させる。</p>
(2)	<p>青森県内初 八戸圏域連携中枢都市圏が誕生</p> <p>八戸圏域8市町村（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）による青森県内初の連携中枢都市圏が22日、誕生した。将来像として、「地域の個性が輝き自立した八戸圏域」を掲げ、新年度から都市圏ビジョンに盛り込んだ23施策・64事業を連携して実施し、人口減少、少子高齢化が進む中、圏域の活力維持を図る。ドクターカー運行やバス運賃の上限設定など「生活関連機能サービスの向上」に加え、「圏域全体の経済成長のけん引」「高次の都市機能の集積・強化」の3分野が柱となる。</p>
(3)	<p>スピードスケート世界大会 2大会統合でも八戸市へ誘致の方針</p> <p>国際スケート連盟（ISU）は、2020年からスピードスケートの世界スプリント選手権と世界選手権の2大会を統合し、隔年開催とすることを検討している。市では、2019年秋の共用開始を目指す屋内スケート場のこけら落としとして、国際大会の誘致を目指しており、その実現に向け、日本スケート連盟を通じISUに対し開催を立候補している。日本スケート連盟は23日の理事会で、統合する場合でも八戸市での開催に向け進めることとし、誘致の手続きに入った。大会の統合については、来年6月のISUの総会で決まる。日本スケート連盟の担当者は「どちらになっても八戸開催が前提。両方に対応できるよう手続きを進める」と話している。</p>
(4)	<p>西地区給食センター完成 アレルギー対応も万全</p> <p>八戸市が北インター工業団地に新築移転した西地区給食センターが完成し23日、関係者に披露された。最新鋭設備で衛生面や供給機能を強化し、新年度から市立の小中学校の約半分に当たる1万食を賄う。100食分作れるアレルギー食専用の調理室を用意。10、11月には卵・乳・そば・落花生・カニの5品目を除去した、市で初のアレルギー対応食を開始し、希望者への提供を始める。</p>
(5)	<p>南郷地区のブドウ栽培 生産規模 大幅拡大へ</p> <p>八戸市南郷事務所で南郷新規作物研究会議において、2017年度、南郷地区で進むワイン用ブドウを新たに1万3千本、作付けされる見通しであることを八戸市が明らかにした。ワイナリーを手掛ける生産法人が栽培に本格的に参入するほか、今秋から醸造が始まることで地元農家の関心が高まった。2014～16年度に植えられたのは計3200本で、計画通りに進めば規模が5倍に拡大する。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p>2016年青森県内の外国人宿泊者数 最多の14万5千人</p> <p>観光庁が公表した「宿泊旅行統計調査」を基にした青森県の集計によると、2016年に県内に宿泊した外国人は延べ14万5370人となり、2年連続で最多を更新した。外国人宿泊者は、宿泊者数・伸び率とも東北2位で、国・地域別では、台湾が5万150人と最も多く、前年より1万9530人の（63.8%）の増加。台湾と青森県を結ぶチャーター便は15年が45便、16年が46便と横ばいだったが、定期便が就航している仙台空港や函館空港、首都圏からの流入が増えたとみられる。</p>

(7)	<p>八戸港 数量、金額とも2カ月連続で過去最低</p> <p>八戸市水産事務所が発表した八戸港の2月の水揚げ統計によると、数量は1181トン（前年同月比62%減）、金額は5億8094万円（42%減）と大きく落ち込んだ。過去10年で見ると、1月に続き数量、金額とも最低。しけで出漁回数が限られたのが主な要因で、関係者からは「しけが多い異常な状態が続いている。こんなに漁ができないのは初めて」と嘆きが漏れる。2月の水揚げは近海の中型底引き網漁と中型イカ釣り船の船凍品が柱。スルメイカの不漁を受け、3月はアカイカを漁獲した。</p>
-----	---

【地域】

記事	概要
(8)	<p>焼失の蕪嶋神社 社殿の基礎工事完了</p> <p>2015年11月に社殿を焼失した蕪嶋神社の再建で、基礎部分の工事が完了し2日、報道陣に現地公開された。工事は順調に進んでおり、春夏にかけてのウミネコの繁殖時期は作業を中断し、9月から社殿本体の工事に取り掛かる。実行委などが窓口となって続けている募金では、これまでに約1億7262万3千円が寄せられた。保険金約1億2千万円と合わせて事業費に充てる。完成は2019年12月で、現在は立ち入りが禁止されている頂上の一般開放は2020年3月の予定。</p>
(9)	<p>八戸グランドホテル顧問の高畑さん “一流”マナー講師に合格</p> <p>八戸グランドホテル顧問の高畑紀子さんが、「日本マナー・プロトコール協会」（東京都）が一流の技術を有していると見なす認定講師に、青森県内で初めて合格した。同協会は、マナーの普及、啓発を目的に設立され、ビジネスマナーや日本のしきたりなどを学ぶ講座や、技術取得のための検定試験を実施している。高畑さんは「日々現場で経験していることを生かしながら、おもてなしの心や、相手の立場に寄り添ったマナーを伝えていきたい」と話している。</p>
(10)	<p>「図書館を使った調べる学習コンクール」 吉野君（吹上小）が観光庁長官賞受賞</p> <p>図書館振興財団主催の2016年度「図書館を使った調べる学習コンクール」の全国大会で、八戸市の国宝の合掌土偶を研究した市立吹上小2年の吉野秀（すぐる）君が最高賞に次ぐ観光庁長官賞に輝いた。南部氏を取り上げた兄で同小5年の元（はじめ）君も優良賞を受賞し、2年連続で兄弟そろっての入賞となった。昨年、初めての応募で1年生ながら優良賞に入った秀君。今回は「国宝合しよう土ぐうはご近所さん」と題し、市内だけでなく全国の土偶を調べて違いを観察したり、土偶を作ったりした様子をまとめた。</p>
(11)	<p>市民400人が手をつなぐ「ヒューマンバンド」で震災犠牲者追悼</p> <p>東日本大震災から6年となった11日、青森県内では追悼行事や防災訓練が各地で行われた。県内で最も大きな被害を受けた八戸市では、種差海岸に集まった市民約400人が手をつないで「ヒューマンバンド」をつくり、犠牲者の冥福を祈った。同イベントは、有志の集まり「HUMANBANDあおもり」が震災翌年から毎年行っている。小渡章好代表は「私たちはたった6年で震災を忘れかけているのではないか。後世に語り継ぐことが私たちの役割だ」と話している。</p>

(12)	<p>館鼻岸壁の日曜朝市始まる ～早春のハマに活気～</p> <p>八戸市のハマを象徴する風物詩・館鼻岸壁の朝市が12日、約2カ月半ぶりに再開された。会場には夜明け前から生鮮食品や総菜、日用品などを扱う約200店が立ち並び、開催を待ち望んでいた多くの買い物客で活気にあふれた。青森地方気象台によると、この日の八戸市の最低気温は氷点下2.4度。めん類や揚げ物など温かい食べ物を出す店からは湯気が立ち上がり、買い物客も白い息を吐きながら店を回った。12月末までの毎週日曜日（5月14日は休み）、午前5時前から9時ごろまで開いている。</p>
(13)	<p>～学んだ知識を地域に還元～ 八戸鷗盟大学卒業式で決意</p> <p>60歳以上の八戸市民が学ぶ「鷗盟大学」の本年度の卒業式が14日、市総合福祉会館で開かれた。鷗盟大学は充実した高齢期を過ごすことなどを目的に、市が1976年度に開設。今年度は生活福祉科52人、園芸科7人が週に1度の講義を通じ、一般教養の郷土史や身近な法律のほか、専門科目として礼儀作法、草花の育て方などを学んだ。2年間の過程を終えた62～84歳の40期生計59人が、学んだ知識を生かして地域で活動する決意を新たにした。</p>
(14)	<p>青森県民は花見好き 予算3,167円で全国一</p> <p>民間気象会社ウェザーニューズ社が花見に関する意識調査を行ったところ、青森県民が花見にかかる予算が47都道府県中、最も高いことが分かった。公表された調査結果によると、県民の花見にかかる予算は3,167円でトップ。全国平均より930円、2位の岩手より248円高い。花見の所要時間も3位（2.3時間）、回数も全国上位で、改めて花見好きの県民性がうかがえる結果となった。</p>
(15)	<p>八戸献血ルームが3月末で休止 “駆け込み善意”続々</p> <p>八戸市類家縄手下の青森県赤十字血液センター八戸出張所にある「八戸献血ルーム」が、3月末で献血者の受け入れを休止するのに伴い、“駆け込み”で訪れる人が増えている。3月に入り、1日当たり平均33人が献血、前年同月の約1.4倍に上る。同センターは4月以降、全県を巡回する献血バスの稼働を増やして対応するが、長年通うなど熱心に協力していた人も多く、献血者からは「定期的に来ていたのに残念」「思い立った時に来られなくなる」と休止を惜しむ声が相次いでいる。県内には現在、八戸、青森、弘前の3市に献血ルームがあるが、全県的な事業集約や建物の老朽化などで、昨年、八戸の休止が決定した。</p>
(16)	<p>八戸水産高の実習船「青森丸」 ハワイ海域での航海実習終え帰港</p> <p>八戸市の八戸水産高校の実習船「青森丸」（660トン）が、ハワイ南方海域でのマグロはえ縄漁など70日間の国際航海実習を終え、20日、八戸港に帰港した。実習には海洋生産科2年生32人、専攻科の漁業科・機関科の1年生18人が参加した。同海域で32回操業し、約33トンのマグロを漁獲。三崎港（神奈川）に水揚げし、約2500万円で販売した。着岸した館鼻岸壁では大勢の家族らが船を出迎え、たくましく成長した生徒たちの姿に目を細めた。</p>
(17)	<p>八戸駅 待ち時間の“おもてなし” マッサージの試験サービス実施</p> <p>八戸観光コンベンション協会は、JR八戸駅を利用するビジネス客や観光客を対象に、マッサージと地元ならではの飲み物で癒しの時間を提供する、新たな取り組みを試験的に実施した。足か手のどちらかを選ぶ20分間のマッサージは、菊サイダーなど県内の“ご当地ドリンク”付き。マッサージ中は、八戸地域の観光や体験型プランをまとめたPR映像や音楽を流した。新幹線を待つ空き時間などを活用した“おもてなし”を事業化し、観光の魅力を発信するのが狙い。</p>

(18)	<p>八戸港に南洋から珍客「スミツキアカタチ」漁獲</p> <p>八戸港の底引き網船が27日、鮫沖で体長40センチほどの細長い魚を生きたまま漁獲し、市第2魚市場へ水揚げした。全身真っ赤なのが特徴で、船から寄付された市水産科学館マリエントが研究機関に尋ねたところ、「スミツキアカタチ」と判明した。本来は南の暖かい海に生息し、八戸など北日本で漁獲されるのはまれ。マリエントでは元気になったら展示する予定だという。</p>
------	---

【文化・スポーツ】

記事	概要
(19)	<p>ヴァンラーレ八戸 初の開幕戦勝利 J3へ好発進</p> <p>日本フットボールリーグ（JFL）の2017年シーズンが3月5日に開幕し、各地で第1ステージ(S)第1節の8試合を実施した。ヴァンラーレ八戸は東京都の味の素フィールド西が丘で東京武蔵野シティと対戦、2-1で競り勝ち、柱谷哲二監督の初陣を白星で飾った。2014年のJFL参入以来、初めて開幕戦で勝利し、目標とするJ3昇格に向けて好スタートを切った。その後、12日には栃木市総合運動公園陸上競技場で、第2節の栃木ウーヴァ戦に臨み、3-1で勝利。開幕2連勝で勝ち点を6とした。</p>
(20)	<p>5人組歌手「ピースストーン」 ～八戸の魅力を全国に～ シングルCD発売</p> <p>八戸市出身のメンバーを含む5人組の歌手グループ「PEACE \$ TONE（ピースストーン）」が8日、八戸を題材にした楽曲など4曲を収録したシングルCDを発売した。ピースストーンは、東京の芸能事務所「STONEProject」に所属し、東京都を拠点に活動。メンバーの1人は「八戸を離れて、地元の温かさや魅力をさらに実感するようになった。活動を通じて、お祭りや食べ物などを含めた故郷の素晴らしいところを、全国の人に知ってほしい」と話している。市内外のCDショップなどで購入できる。</p>
(21)	<p>5校の高校生が劇団旗揚げ公演 ～地元愛たっぷり 情熱発信～</p> <p>演劇と八戸を愛する高校生が劇団「8. Fusion!!」を旗揚げした。代表の八戸東高3年の畑中大河さんは「演劇でプロを目指す学生が経験を積める環境を」との思いで劇団の結成を決意し、高校の演劇仲間呼び掛けところ、八戸高、八戸北高、八戸東高、三本木高、千葉学園高の5校から15人が集まった。20日にははっちで開いた初の自主公演では、メンバーが「地元の演劇シーンを盛り上げたい」という熱い気持ちを作品に乗せ、観客に届けた。会場に足を運んだ計150人の観客を前に、出演者は地元を盛り上げようと奮闘する人々を生き生きと演じた。</p>
(22)	<p>八戸童話会 南部弁を学べるCD「あのなっす南部弁」作製</p> <p>八戸童話会（榎谷伸夫会長）は、南部弁を聞いて学べるCD「あのなっす南部弁」を作製した。CDには約100の単語、46の例文を収録しており、標準語の後に南部弁が流れるという構成。会員によるアナウンスが、温かみのある南部弁の響きを引き立てている。榎谷会長は「聞いて声に出して、南部弁を楽しんで。地元には、すてきな言葉があるということを知ってほしい」とPRしている。販売の予定はなく配布のみで、3月上旬から市内の学校や図書館約140団体に配布された。数に限りはあるが、要望があれば団体などに提供する。</p>
(23)	<p>八戸弓道協会で初 外国人2人が1級射止める</p> <p>八戸弓道協会ですべて初となる外国人の弓道審査1級取得者が誕生した。八戸市庁に勤めるマシュー・ボラさん(25)=米国出身=と、同市の外国語指導助手(ALT)ケアリン・ロウさん(25)=ニュージーランド出身=の2人で、日本の文化や伝統に親しみたいと弓道を始め、2月に行われた審査会で合格。見事に1級を射止め「とてもうれしい。次は初段を目指す」と稽古に励んでいる。</p>